

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.51

2006年10月1日

発行 全国自動車大学校・整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



高等教育制度に変化の兆し

東京工科専門学校理事長
 全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

山本 眞

自動車整備学校の現況

自動車整備専門学校は2005年度から在籍数が減少に転じた。(平均的には)誰でもどこかの大学に入れるようになる「大学全入」が原因だろうか。それとも自動車の魅力が大学に敵わなくなったのだろうか。

一方、昨年文部科学省は4年制の専門課程には認可制で卒業生に「高度専門士」称号を付し、大学院入学資格を与えると発表した。これで高等教育は大学経由と専門学校経由の複線型にすると言う。自動車整備の一級課程もこの道の一つとして成長するだろうか。

少子化の中で若者は貴重な存在であり、その能力育成は重要な国家課題である。それ故様々な高等教育を準備しようとしているのだと考える。とにかく大学がライバルになった。

しかし、4年課程は2年課程に比べ息の長いカリキュラムが要求され、大学に伍した教育目標にレベルアップするためには学内の改革が要るだろうし、投資額も増えることになる等々の経営課題を抱える覚悟をしなければならない。

大学での整備教育の一例

本年7月、帝京大学宇都宮キャンパスのオートモビルテクノロジーコース内覧会の話聞いた。①その母体となる機械・精密システム工学科



は四力(機械力学、材料力学、流体力学、熱力学)の基礎理論をベースとして応用工学を学ぶ学科だそうだが、車はそれらの基礎理論の集大成となるもので、理論と実践を結びつける上で格好の教材であると学長は言う。②また、今後自動車産業においては、エネルギー革命や環境問題への対応のため高度な技術者が求められているとも言っている。③さらに、これから機械を学ぶ若者に対し、学びの目標として車という具体的な物を提示し、且つその成果として二級整備士の資格を取得させる課程(認定大学制度、即ち専門学校の60%の訓練時間数によって二級整備士学科試験の受験資格を得、卒業までに2養講習を受けて実技試験免除を得る)が有効であると考えたと言う。

この大学の狙いは、理論に強い大学イメージに実践力を結び付けて、業界に有為な人材を供給するという点にある。立派な教育目標である。

これからの専門学校

しかし、今後大学は全入の時代に入り、学力の低い学生が入学する可能性が高くなる中、授業で「四力」を理解させ、「理論に強くて実践が確かな」卒業生を狙い通り作るためには多くの課題が予想される。

一方、専門学校の教育目標も資格取得だけに頼らず、業界の人材育成の観点から自ら立てた目標を訴える必要がないだろうか。

そのためには①変革する企業の人材ニーズをもっと突っ込んで研究することが出発点だろう。そして②優秀な企業に見事合格した卒業生がその後どんなキャリアを積んでいるのか、追跡調査する必要がある。さらに③そこで得た卒業生の活躍情報から専門学校卒の有為性をもっとしっかり訴え、世間の単純な大学指向を見直させ、自力で優秀な人材の卵を専門学校に誘導しなければならない。

こうした活動は一枚だけではなかなか難しいので、JAMCAとして取り組む必要がないだろうか。

CONTENTS

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4-5面	学校内外での事故と安全対策
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記